

V. 在アフリカ日本国大使との意見交換

派遣団は、今般のガーナ共和国、ルワンダ共和国及びチュニジア共和国における我が国のODA並びにアフリカ開発銀行の活動状況に関する現地調査を踏まえ、我が国のODAの中でも、今後、更に重要性が高まることが予想されるアフリカ支援の在り方について総合的な検討を行い、より実効性ある提言等を行うため、帰国後の2010年12月20日(月)、アフリカ大使会議のため帰国中であった在アフリカ日本国大使10名を招き、意見交換を行った。

なお、当日意見交換を行った大使は以下のとおりである。

越川和彦 在アンゴラ大使
片上慶一 在ガーナ大使
高田稔久 在ケニア大使
北澤寛治 在コンゴ民主共和国大使
江川明夫 在ザンビア大使
和田明範 在スーダン大使
中川坦 在タンザニア大使
松山良一 在ボツワナ大使
小澤俊朗 在南アフリカ大使
瀬川進 在モザンビーク大使
(赴任国名の五十音順)



(写真) 駐アフリカ大使との意見交換

意見交換に当たっては、まず、派遣団の各メンバーから、今般の調査に対する所感が述べられたのち、各国大使から、赴任国の政治経済情勢、我が国や他ドナーによる支援状況、資源開発の現状、支援に当たっての今後の課題等について説明を聴取した後、中国等の新興ドナーの支援状況、資源外交、支援における官民連携の在り方等について意見交換を行った。その際、各国大使からアフリカの現状を把握するため、国会からの積極的な議員団派遣に対する要望もなされた。